マンガにおける異本研究

安岡孝一*

1　はじめに

日本のマンガの多くは、週刊誌や月刊誌等に連載されたのち、単行本としてまとめられる、という出版形態をとっている。しかも、単行本にまとめる際に、フキダシやコマ割り、あるいはストーリーそのものを改変することが、かなり頻繁におこなわれている。すなわち、初出と単行本とが、いわゆる異本の関係にあり、それらの異同を調査することが、マンガ研究の一部をなす、ということである。

本稿では、そのような異同を記述するにあたり、マンガの情報構造を、できるかぎり簡便に反映する方法を探る。具体的には、手塚治虫『三つ目がとおる グリーブの秘密編』の異本を例に、マンガにおける異同について実際に調査をおこない、その異同を記述する方法について考察する。

2　『三つ目がとおる グリーブの秘密編』

手塚治虫は、ほとんど全ての作品においてリライトをおこなっており、したがって、作品の数だけ異本が存在すると言っても過言ではない。1974 年から 1978 年にかけて週刊少年マガジン (講談社) に連載された『三つ目がとおる』も例外ではなく、その中でも「グリーブの秘密編」は、広範囲なリライトが二度に渡っておこなわれた作品である。本稿では、あえて、この『三つ目がとおる グリーブの秘密編』を、異同調査の例として取り上げることにする。

2.1　改題

週刊少年マガジン 1975 年 6 月 1 日号〜 8 月 24 日号初出。

講談社コミックス第 325 巻 [KC325]『三つ目がとおる ③』(講談社、1976 年 3 月 1 日第 1 刷発行) で単行本化の際、8 月 17 日号・8 月 24 日号掲載分のプロットがカットされた。また、1 月 19/26 日号〜 3 月 30 日号掲載分の各コマを再構成して「第 1 章」が作られ、同時に「第 2 章」〜「第 5 章」の章立てもおこなわれた。さらに、手塚治虫全集 108 巻 [MT108]『三つ目がとおる ⑧』(講談社、1980 年 5 月 20 日第 1 刷発行) に収録の際、8 月 17 日号・8 月 24 日号掲載分が復活し、同時に「グリーブの秘密編」というサブタイトルが付けられた。また、フキダシの総ルビは、ほぼ全て削除された。

なお、その後の KC スペシャル 253 巻 [KCSP253]『三つ目がとおる 第三集』(講談社、1986 年 9 月 6 日第 1 刷発行) や、あるいはそれ以後の単行本における「グリーブの秘密編」は、管見では MT108 がそのまま踏襲されており、異同はないように思われる。ただし、講談社プラチナコミック 63 巻 [KPC63]『三つ目がとおる グリーブの秘密編』(講談社、2003 年 5 月 28 日第 1 刷発行) では、MT108 の冒頭 pp.8-30 が削除されており、残りの部分だけが収録されている。

*京都大学人文科学研究所附属東アジア人文情報学研究センター

図 1: 週刊少年マガジン 1975 年 6 月 1 日号での上底先生の正体

講談社コミックス
紅の挑戦者①～⑥
猛烈キックがうなる大迫力の激闘漫画！
絶賛発売中！各350円

図 2: KC325 での上底先生の正体

図 3: MT108 での上底先生の正体

2.2　主な登場人物

写楽保介 本作の主人公。古代三つ目族の生き残りで、第三の目を持つ。現代人類を遥かに超える高い知能を有し、脳ミソをトコロテンにする機械を作ったり、人類には解読不能な古代文字を読んだりする。第三の目をバンソウコで塞がれると、小学一年生なみの中学二年生。

和登千代子 本作のヒロイン。写楽の同級生でコイビト。お寺の娘で、住職の父親に、写楽との付き合いを禁じられている。写楽のバンソウコを、自由にはがしたり貼ったりする腕を持つ。上底先生によって、写楽と共に、ナバホ山ちかくの「グリーブ」へ連れて行かれる。

上底先生 写楽と和登の学園に赴任してきた女教師。初出では 1975 年 5 月 25 日号〜 8 月 10 日号に登場。ICPO の捜査官であり、CIA のエージェントでもあるという設定 (図 1)。「グリーブ」の暴走に巻き込まれて死亡。KC325 では設定が変わっており、「全ピキ連」の闘士ということになっている (図 2)。また、KC325 では死亡せず、写楽・和登と共に小型船で日本に帰る。一方、MT108 でも「全ピキ連」の闘士という設定 (図 3) だが、最期は「グリーブ」の暴走に巻き込まれて行方不明となっている。

ブラック・ホーン 上底先生の夫で、ナバホ族の出身。「グリーブ」の研究者。初出では 1975 年 7 月 6 日号〜 8 月 17 日号に登場、「グリーブ」の暴走で怪我を負い、マクドナルド・ハンパーカーに撃たれて死亡。KC325 では「グリーブ」の暴走で負った怪我がもとで死亡。MT108 ではポーク・ストロガノフに撃たれて死亡。

マクドナルド・ハンパーガー 初出では 1975 年 8 月 10 日号〜 8 月 24 日号に登場。CIA 部長で、写楽と和登を CIA 本部に連れて行く。KC325 では登場しない。MT108 では登場しているものの、名前がポーク・ストロガノフに変わっている。

3　マンガにおける異同の記述

3.1　異同のレベル

一口に異同と言っても、マンガにおける異同には、様々な種類のものが存在する。本稿ではそれらの異同を、多少乱暴だが、以下の 3 レベルに分類することにする。

1. **プロットの異同**
   マンガのプロット、すなわち話の筋そのものが変わっている場合。一般には、コマの異同やフキダシの異同を伴う。
2. **コマの異同**
   コマの位置や、コマに書かれている内容が変わっている場合。
3. **フキダシの異同**
   コマ中の人物や絵は変更されずに、フキダシの内容だけが変わっている場合。

図1(週刊少年マガジン 1975年6月1日号 pp.104-105) と図2(KC325 p.62) および図3(MT108 p.62) の異同を例に、少し考察してみよう。上底先生の横暴をやめさせるべく、生徒たちが校長に直談判するシーンなのだが、ここで明かされる上底先生の正体は、図1と図2・3では全く異なっている。すなわち、図1では、生徒たちに正体が明かされる (ICPO の捜査官) ものの、読者にはわからない。一方、図2・3では、「全ピキ連」の闘士という正体が明かされる。これが「プロットの異同」である。次に、図1と図2・3の各コマをチェックすると、図1の p.104 の下半分にある5つのコマと、図1の p.105 の上半分の大コマは、図2・3では使われていない。そして、図1の残りの7コマが、図2・3の1ページ (p.62) に詰め込まれている。これが「コマの異同」である。また、図2・3のうち下3段の5コマは、それぞれ図1に同一の絵柄のコマがあるものの、フキダシの内容が完全に変わっている。これが「フキダシの異同」である。

これらの異同のレベルのうち、「プロットの異同」については、自然言語で記述するしかなく、機械可読な記述は非常に難しいと考えられる。一方、「コマの異同」と「フキダシの異同」は、機械可読な記述が可能だと考えられるが、その際、著作権法に抵触しないような記述が必要である。端的には、コマの画像そのものを直接記述せずに、異同を記述する必要がある。そのような記述が可能かどうか以下で考察する。

3.2 各コマを特定するための記述

図1の各コマを仮に「1975.6.1-104A」〜「1975.6.1-105D」、図2の各コマを仮に「KC325-62A」〜「KC325-62G」、図3の各コマを仮に「MT108-62A」〜「MT108-62G」と名づけた場合、これらのコマを特定するためには、どのような記述が必要かを考えてみる。

- **1975.6.1-104A**

フキダシ右上＝校長“ま	コマ上＝ 1975.6.1-104 天
まってくれ”	コマ右＝ 1975.6.1-104 右ハシラ
フキダシ左上＝校長“いろいろ	コマ左＝ 1975.6.1-104B
事情(じじょう)が	コマ下＝ 1975.6.1-104C
あってね”	

- **KC325-62A**

フキダシ右上＝校長“ま	コマ上＝ KC325-62 天
まってくれ”	コマ右＝ KC325-62 右ハシラ
フキダシ左上＝校長“いろいろ	コマ左＝ KC325-62B
事情(じじょう)が	コマ下＝ KC325-62C
あってね”	

- **MT108-62A**

フキダシ右上＝校長“ま　コマ上＝ MT108-62 天
待ってくれ”　コマ右＝ MT108-62 右ハシラ
フキダシ左上＝校長“いろいろ　コマ左＝ MT108-62B
事情が　コマ下＝ MT108-62C
あってね”

- **1975.6.1-104B**

フキダシ右上＝校長“よく注意（ちゅうい）は　コマ上＝ 1975.6.1-104 天
しておくが　コマ右＝ 1975.6.1-104A
先生（せんせい）をしばること　コマ左＝ 1975.6.1-104 左ノド
はできんのです”　コマ下＝ 1975.6.1-104C
フキダシ左上＝男子生徒“どうしてですか　コマ下＝ 1975.6.1-104D
あの先生（せんせい）に
なにかよわみでも
あるんですか”

- **KC325-62B**

フキダシ右上＝校長“よく注意（ちゅうい）は　コマ上＝ KC325-62 天
しておくが　コマ右＝ KC325-62A
先生（せんせい）をしばること　コマ左＝ KC325-62 左ノド
はできんのです”　コマ下＝ KC325-62C
フキダシ左上＝男子生徒“どうしてですか　コマ下＝ KC325-62D
あの先生（せんせい）に
なにかよわみでも
あるんですか”

- **MT108-62B**

フキダシ右上＝校長“よく注意は　コマ上＝ MT108-62 天
しておくが　コマ右＝ MT108-62A
先生をしばること　コマ左＝ MT108-62 左ノド
はできんのです”　コマ下＝ MT108-62C
フキダシ左上＝男子生徒“どうしてですか　コマ下＝ MT108-62D
あの先生に
何か弱みでも
あるんですか”

- **1975.6.1-104C**

フキダシ右上＝校長“いたい　コマ上＝ 1975.6.1-104A
ところを　コマ上＝ 1975.6.1-104B
つくねえ”　コマ右＝ 1975.6.1-104 右ハシラ
フキダシ左上＝男子生徒“たとえば　コマ左＝ 1975.6.1-104D
うちの学校(がっこう)の　コマ下＝ 1975.6.1-104E
理事長(りじちょう)の　コマ下＝ 1975.6.1-104F
しんせきとか
‥‥”

- **KC325-62C**

フキダシ右上＝校長“あの人(ひと)は　コマ上＝ KC325-62A
全(ぜん)ピキ連(れん)　コマ上＝ KC325-62B
なのです”　コマ右＝ KC325-62 右ハシラ
フキダシ左上＝男子生徒“なんですか　コマ左＝ KC325-62D
その全(ぜん)ピキ　コマ下＝ KC325-62E
連(れん)って‥‥”　コマ下＝ KC325-62F

- **MT108-62C**

フキダシ右上＝校長“あの人は　コマ上＝ MT108-62A
全ピキ連　コマ上＝ MT108-62B
なのです”　コマ右＝ MT108-62 右ハシラ
フキダシ左上＝男子生徒“なんですか　コマ左＝ MT108-62D
その全ピキ　コマ下＝ MT108-62E
連って‥‥”　コマ下＝ MT108-62F

- **1975.6.1-104D**

フキダシ右上＝校長“そんな　コマ上＝ 1975.6.1-104B
よく　コマ右＝ 1975.6.1-104C
学園(がくえん)マンガに　コマ左＝ 1975.6.1-104 左ノド
あるような　コマ下＝ 1975.6.1-104F
ものじゃ　コマ下＝ 1975.6.1-104G
ないんだ”

- **KC325-62D**

フキダシ右上＝校長“「全女性(ぜんじょせい)　コマ上＝ KC325-62B
ピンカラ　コマ右＝ KC325-62C
キリマデ　コマ左＝ KC325-62 左ノド
連盟(れんめい)」　コマ下＝ KC325-62F
というので
す！”

- **MT108-62D**

フキダシ右上＝校長“「全女性
ピンカラ
キリマデ
連盟」
というので
す！”

コマ上＝ MT108-62B
コマ右＝ MT108-62C
コマ左＝ MT108-62 左ノド
コマ下＝ MT108-62F

- **1975.6.1-104E**

フキダシ右上＝男子生徒“じゃあ
なんとか
組(くみ)の
ボスの
‥‥”

コマ上＝ 1975.6.1-104C
コマ右＝ 1975.6.1-104 右ハシラ
コマ左＝ 1975.6.1-104F
コマ下＝ 1975.6.1-104H

- **1975.6.1-104F**

フキダシ右上＝校長“ちがうったら
そういう
ものとは
関係(かんけい)ない”

コマ上＝ 1975.6.1-104C
コマ上＝ 1975.6.1-104D
コマ右＝ 1975.6.1-104E
コマ左＝ 1975.6.1-104G
コマ下＝ 1975.6.1-104H
コマ下＝ 1975.6.1-104I

- **1975.6.1-104G**

フキダシ右上＝男子生徒“はっきり
いって
ください”
フキダシ左上＝男子生徒“でないと
ぼくたち
ストをしますよ”

コマ上＝ 1975.6.1-104D
コマ右＝ 1975.6.1-104F
コマ左＝ 1975.6.1-104 左ノド
コマ下＝ 1975.6.1-104I

- **1975.6.1-104H**

フキダシ右上＝校長“よわったな
ウーン‥‥
じゃあ
これを
見(み)せよう”

コマ上＝ 1975.6.1-104E
コマ上＝ 1975.6.1-104F
コマ右＝ 1975.6.1-104 右ハシラ
コマ左＝ 1975.6.1-104I
コマ下＝ 1975.6.1-104 地

- **1975.6.1-104I**

コマ上＝ 1975.6.1-104F
コマ上＝ 1975.6.1-104G
コマ右＝ 1975.6.1-104H
コマ左＝ 1975.6.1-104 左ノド
コマ下＝ 1975.6.1-104 地

- **1975.6.1-105A**

フキダシ左上＝“あっ”
フキダシ左＝男子生徒“あっ”

コマ上＝ 1975.6.1-105 天
コマ右＝ 1975.6.1-105 右ノド
コマ左＝ 1975.6.1-105 左ハシラ
コマ下＝ 1975.6.1-105B
コマ下＝ 1975.6.1-105C

- **1975.6.1-105B**

フキダシ左上＝校長“‥‥こういうわけだ
事情はいえんが
あの先生は　この学校では
すきにふるまえるんだ‥‥”

コマ上＝ 1975.6.1-105A
コマ右＝ 1975.6.1-105 右ノド
コマ左＝ 1975.6.1-105C
コマ左＝ 1975.6.1-105D
コマ下＝ 1975.6.1-105 地

- **KC325-62E**

フキダシ左上＝校長“あの人をおこらせたり
すると　全世界の
五百万人の女が政府へ
どなりこんで　この学校を
ぶっつぶしてしまいます！”

コマ上＝ KC325-62C
コマ右＝ KC325-62 右ハシラ
コマ左＝ KC325-62F
コマ左＝ KC325-62G
コマ下＝ KC325-62 地

- **MT108-62E**

フキダシ左上＝校長“あの人をおこらせたり
すると　全世界の
五百万人の女が政府へ
どなりこんで　この学校を
ぶっつぶしてしまいます！”

コマ上＝ MT108-62C
コマ右＝ MT108-62 右ハシラ
コマ左＝ MT108-62F
コマ左＝ MT108-62G
コマ下＝ MT108-62 地

- **1975.6.1-105C**

フキダシ右上＝女子生徒“でも
あんまり
だわ”
フキダシ左上＝男子生徒“よりによって
この学校へ
くるなんて
ひどいや”

コマ上＝ 1975.6.1-105A
コマ右＝ 1975.6.1-105B
コマ左＝ 1975.6.1-105 左ハシラ
コマ下＝ 1975.6.1-105D

- **KC325-62F**

フキダシ右上＝女子生徒“じゃあ
しかたが
ないわね”
フキダシ左上＝男子生徒“女ってのは
いま男の
十倍も
つよいって
からなア”

コマ上＝ KC325-62C
コマ上＝ KC325-62D
コマ右＝ KC325-62E
コマ左＝ KC325-62 左ノド
コマ下＝ KC325-62G

- **MT108-62F**

フキダシ右上＝女子生徒	“じゃあ	コマ上＝ MT108-62C
	しかたが	コマ上＝ MT108-62D
	ないわねえ”	コマ右＝ MT108-62E
フキダシ左上＝男子生徒	“女ってのは	コマ左＝ MT108-62 左ノド
	いま男の	コマ下＝ MT108-62G
	十倍も	
	強いって	
	からなア”	

- **1975.6.1-105D**

フキダシ右上＝和登千代子	“あたし	コマ上＝ 1975.6.1-105C
	学校(がっこう)を	コマ右＝ 1975.6.1-105B
	やめたく	コマ左＝ 1975.6.1-105 左ハシラ
	なったわ”	コマ下＝ 1975.6.1-105 地

- **KC325-62G**

フキダシ右上＝和登千代子	“ボク	コマ上＝ KC325-62F
	十倍(ばい)も	コマ右＝ KC325-62E
	つよくない	コマ左＝ KC325-62 左ノド
	よ　一倍半(ばいはん)	コマ下＝ KC325-62 地
	ぐらいよ”	

- **MT108-62G**

フキダシ右上＝和登千代子	“ボク	コマ上＝ MT108-62F
	十倍も	コマ右＝ MT108-62E
	強くないよ	コマ左＝ MT108-62 左ノド
	一倍半	コマ下＝ MT108-62 地
	ぐらいよ”	

各コマのフキダシと相対位置を記述しただけのものだが、各コマを特定するという点では、これにト書キを加えればほぼ十分だと考えられる。仮に、複数ページに渡るコマであっても、「コマ上」や「コマ下」が複数ページに渡るというだけで、記述には困らない。あるいは、矩形でないコマであっても、上下左右には何がしか存在しているはずなので、それを記述すればよい。極端な話、コマと呼べるものが存在しない場合でも、ページを区分している単位があるのなら、それを順不同に記述すればいいだろう。

ただし、上の例では、フキダシの話者を記述に含めたが、話者は無くてもよいような気もする。特に、1975.6.1-104H のフキダシの話者は、ここでは「校長」としているが、それは前後関係が無ければ特定できない。あるいは、絵柄上は同一人物であっても、初出では「マクドナルド・ハンバーガー」で、MT108 では「ポーク・ストロガノフ」になってしまうという問題もある。そういうヤヤコシサを考えると、あるいは話者を記述しない方が良いのかもしれない。

また、上の例では「コマ左」と「コマ下」を記述したが、通常の矩形のコマだけの場合は、「コマ上」と「コマ右」だけで十分である。ただし、タチキリ (コマの端がページの端より外

にある) の場合には、たとえば「コマ下＝ bbb-pp タチキリ」のように記述すべきだと考えられることから、とりあえずは「コマ上」「コマ右」「コマ左」「コマ下」を全て記述しておくことにした。

3.3 機械可読な異同の記述

各コマの記述をもとに、「コマの異同」と「フキダシの異同」をどのように記述するかだが、これは端的に言えば、異同を記述するのではなく、コマの絵柄上の同一性を記述すればよい。すなわち、前節の例で言えば

1975.6.1-104A ≅ KC325-62A ≅ MT108-62A
1975.6.1-104B ≅ KC325-62B ≅ MT108-62B
1975.6.1-104C ≅ KC325-62C ≅ MT108-62C
1975.6.1-104D ≅ KC325-62D ≅ MT108-62D
1975.6.1-105B ≅ KC325-62E ≅ MT108-62E
1975.6.1-105C ≅ KC325-62F ≅ MT108-62F
1975.6.1-105D ≅ KC325-62G ≅ MT108-62G

という記述が、それにあたる。これにより、同一だと認められなかったコマ、すなわち 1975.6.1-104E、1975.6.1-104F、1975.6.1-104G、1975.6.1-104H、1975.6.1-104I、1975.6.1-105A に「コマの異同」があることがわかる。

これに加え、1975.6.1-104C の下にあるコマと、KC325-62C の下にあるコマは、同一ではない。1975.6.1-104D の下にあるコマと、KC325-62D の下にあるコマも、同一ではない。また、1975.6.1-105B の上にあるコマと、KC325-62E の上にあるコマは、同一ではない。1975.6.1-105C の上にあるコマと、KC325-62F の上にあるコマも、同一ではない。したがって、KC325-62C と KC325-62D の下、KC325-62E と KC325-62F の上にある「隙間」に、「コマの異同」が潜んでいることが理解できる。MT108 についても同様である。

一方、絵柄上の同一性が認められるコマどうしであっても、前節の記述におけるフキダシに相違があれば「フキダシの異同」があることがわかる。たとえば、1975.6.1-104C と KC325-62C は同一のコマだが、フキダシの記述は全く異なっており、「フキダシの異同」があるといえる。1975.6.1-104C と MT108-62C との間にも「フキダシの異同」がある。ただ、KC325-62C と MT108-62C との間は、ルビの有無だけの違いであり、これを「フキダシの異同」と呼ぶべきかどうか悩ましい。さらにヤヤコシイのが KC324-62F と MT108-62F の差であり、かな漢字の変更や語尾のちょっとした変化を「フキダシの異同」とするかどうかは、かなり難しいところである。なお、これらの細かい差異を全て「フキダシの異同」だとみなした際には、フキダシも含めて全く同一のコマは、以下のように記述できる。

1975.6.1-104A ≡ KC325-62A
1975.6.1-104B ≡ KC325-62B

3.4 コマの絵柄上の同一性

前節では「コマの絵柄上の同一性」というものが、アプリオリに与えられるかのような説明をおこなったが、この点に関してはいくつか考慮すべき事項がある。

多色刷の場合

初出で四色刷あるいは二色刷であったにもかかわらず、単行本で一色刷となっている場合は、かなりある。これらのコマに関しては、あえて同一だとみなして「≅」で繋いでおくべきだろう。

コマに加筆がおこなわれている場合

初出になかった人物や事物あるいは書き文字が、コマの中に書き加えられている場合。あるいは、スクリーン・トーンやベタが直されている場合。これらのコマを同一だとみなすことはできないが、何がしかの関係づけをおこないたいのも事実である。とりあえず、これらのコマについては、たとえば「∼」のような関係演算子でコマどうしを繋いでおく、というのも一案だろう。

コマに変形が加えられている場合

コマの形が変えられている場合。あるいはコマを回転したり、鏡像を用いた場合。このようなコマについても、とりあえず「≈」のような関係演算子でコマどうしを繋いでおく、というのも一案だろう。

タチキリの変更による場合

タチキリのコマは、週刊誌と単行本で余白部分の取り方がかなり異なるため、コマの端が変わってしまったり、あるいはタチキリでなくなったりする場合もある。程度にもよるが、変更が小さい場合はあえて「≅」で、大きい場合は「≈」で、コマどうしを繋いでおくのも一案だろう。

4　おわりに

マンガにおける「コマの異同」と「フキダシの異同」を、記述する方法について考察した。具体的には、各コマの相対位置記述とフキダシの記述をおこない、さらに「コマの絵柄の同一性」を記述することによって、「コマの異同」と「フキダシの異同」の双方を、同時に記述できることを示した。

また、この手法で『三つ目がとおる グリーブの秘密編』の各コマの記述をおこない、週刊少年マガジン (初出) と講談社コミックス [KC325] と手塚治虫全集 [MT108] との間の異同を、実際に確認した。異同を確認した結果、コマの対応関係はかなり複雑なものとなってしまったため、読みやすいようページ毎の対応に直して、次ページ以降に示す。

週刊少年マガジン		KC325	MT108
第 1 章 先生も狂った！			
1975.1.19/26 号	pp.10-17	pp.8-15	pp.8-15
	p.18 と p.24	p.16	p.16
	p.25	p.17	p.17
1975.2.23 号	pp.112-116	pp.18-22	pp.18-22
1975.1.19/26 号	pp.26-27	pp.23-24	pp.23-24
1975.2.2/9 号	p.59	p.25	p.25
	p.60 と p.61	p.26	p.26
	p.63	p.27	p.27
-		pp.28-30	pp.28-30
1975.3.23 号	pp.123-124	pp.31-32	pp.31-32
	p.126 と p.129 と p.128	p.33	p.33
	p.130	p.34	p.34
1975.3.30 号	pp.90-96	pp.35-41	pp.35-41
1975.6.8 号	pp.78-84	pp.42-48	pp.42-48
第 2 章 悪魔のような女			
-		p.50	p.50
1975.6.1 号	pp.92-93	pp.51-52	pp.51-52
	p.94	p.53	p.53
	p.95		
		p.54	p.54
	p.96		
1975.6.15 号	p.127 と p.128	p.55	p.55
	p.129	p.56	p.56
1975.6.1 号	p.97		
	pp.98-99	pp.57-58	pp.57-58
	p.100	-	
	pp.101-103	pp.59-61	pp.59-61
	p.104 と p.105	p.62	p.62
	pp.106-110	-	
1975.6.8 号	p.87-89	pp.63-65	pp.63-65
	p.90	-	
	p.91	p.66	p.66
	p.92	p.67	p.67
1975.6.15 号	p.121		
		p.68	p.68
	p.122		
	pp.123-127	pp.69-73	pp.69-73
	pp.131-134	pp.74-77	pp.74-77

週刊少年マガジン		KC325	MT108
1975.6.22 号	p.124	-	
	p.125 と p.126	p.78	p.78
	pp.127-128	pp.79-80	pp.79-80
	p.129	p.81	p.81
	p.130		
		p.82	p.82
	p.131		
	p.132	p.83	p.83
	p.133		
		p.84	p.84
1975.6.8 号	p.85 と p.86		
	p.96	p.85	p.85
1975.6.15 号	p.117	p.86	p.86
1975.6.8 号	p.94	p.87	p.87
	p.95	p.88	p.88
1975.6.15 号	p.118		
	p.119	p.89	p.89
1975.6.8 号	p.95		
1975.6.15 号	p.129	p.90	p.90
1975.6.22 号	p.133		
第 3 章 死の谷			
1975.6.22 号	pp.134-135	pp.92-93	pp.92-93
	p.136	-	
	p.137	p.94	p.94
	p.138	p.95	p.95
		p.96	p.96
	p.139		
		p.97	p.97
	pp.140-142	pp.98-100	pp.98-100
1975.6.29 号	p.27	p.101	p.101
	pp.28-29	-	
	pp.30-31	pp.102-103	pp.102-103
	p.32	-	
	pp.33-41	pp.104-112	pp.104-112
	p.43	p.113	p.113
	p.44 と p.45	p.114	p.114
	pp.46-48	pp.115-117	pp.115-117
	pp.49-50	-	
	pp.51-52	pp.118-119	pp.118-119

週刊少年マガジン		KC325	MT108
1975.7.6 号	p.92	p.120	p.120
	p.93		
		p.121	p.121
	p.94		
	pp.95-96	pp.122-123	pp.122-123
	p.94	p.124	p.124
	p.97		
		p.125	p.125
	pp.98-110	pp.126-138	pp.126-138
第 4 章 ナバホ・ポイント			
1975.7.13 号	p.94	p.140	p.140
	p.95	p.141	p.141
	p.96		
		p.142	p.142
	p.98		
	pp.99-105	pp.143-149	pp.143-149
	pp.106-108	-	
	pp.109-112	pp.150-153	pp.150-153
1975.7.20 号	p.64	p.154	p.154
	p.65 と p.66	p.155	p.155
	p.67 と p.69	p.156	p.156
	p.70	p.157	p.157
	p.71		
		p.158	p.158
	p.77		
	pp.72-76	-	
1975.8.10 号	pp.41-44		pp.159-162
第 5 章 満月の奇蹟			
1975.7.20 号	pp.78-82	pp.160-164	pp.164-168
1975.7.27 号	pp.44-46	-	
	pp.47-54	pp.165-172	pp.169-176
	pp.57-63	pp.173-179	pp.177-183
1975.8.3 号	pp.64-65	-	
	pp.66-79	pp.180-193	pp.184-197
	p.80	-	
	pp.81-82	pp.194-195	pp.198-199
	p.83	-	
1975.8.10 号	pp.38-40	pp.196-198	pp.200-202
	p.46	p.199	p.203
1975.7.27 号	pp.55-56	pp.200-201	pp.204-205

週刊少年マガジン		KC325	MT108
1975.8.10 号	pp.47-48	pp.202-203	pp.206-207
-		pp.204-205	pp.208-209
1975.8.10 号	pp.49-51	pp.206-208	pp.210-212
	p.52 と p.53	p.209	p.213
	pp.54-56	-	
-		pp.210-212	pp.214-216
		pp.213-215	-
1975.8.17 号	pp.108-112	-	pp.217-221
	p.113 と p.115		p.222
	pp.116-117		pp.223-224
	pp.119-120		pp.225-226
	p.121		p.227
	p.123		p.228
	p.124		
	pp.125-126		pp.229-230
1975.8.24 号	pp.84-101		pp.231-248
-		p.216	p.249
1975.8.24 号	p.102	-	p.250
-		pp.217-218	-
		p.219	p.251

ただし、本稿の手法はあくまで、作業者が実際に目で確認した「コマの絵柄の同一性」を、記述していくための手助けとなるに過ぎない。「コマの絵柄の同一性」を自動抽出するような画像ツールと組み合わせる、というのが一案なのだが、それを著作権法に違反せずにおこなえるのか、たとえおこなえたとして、それを公に発表することが可能なのか、今後その点が問題となるだろう。

なお、『三つ目がとおる』の異同に関しては、

`http://ngt-the-knife.sakura.ne.jp/rep_mitusme.shtml`

が非常に詳しく、本稿の執筆においても助けていただいた。作者の ngt 氏に謝意を述べる次第である。